

もっと知ろう “陶”

3、狂俳

7月になると、水上・大川の夏祭り「祇園祭」が行われます。この祭りに欠かせないのが狂俳の手描きあんどんです。

狂俳とは、江戸時代、農民などが時の権力に対抗する手段として12文字に自分たちの思いを込めて表現したのが始まりで、岐阜県が発祥の地とされています。(岐阜公園に「狂俳発祥之地」と刻まれた石碑がある。)陶の狂俳も約150年の歴史があります。

狂俳は題として出されたものに7文字と5文字で、時代の風刺・ユーモアなどを表現します。例えば、お題「風格」で、句は「狛犬凜と里に座す」という調子です。祭りは狂俳の発表会になっていて、あんどんにお題と句、その内容を描いた粋なイラストが、ろうそくの灯で映し出されて夜祭りを盛り上げます。

あんどんの大きさは縦55cm、幅30cmで、イラスト(水彩画)はあけぼの台の須藤信利さん、希望ヶ丘の勝次男さんが担当しています。狂俳募集に投稿する人には、自分の作品を絵に描いてもらうのが楽しみになっていると思います。

この狂俳あんどんは、夏祭りにふさわしい・欠かせないものと、猿爪区の夏祭り(8/15)にも貸し出され会場周辺で夜の祭りを盛り上げてくれます。

○狂俳の壁(右の写真)

水上神社の階段の左右に30cm角タイル6枚を合わせた縦90cm、横60cmの陶板が28箇所、壁に埋められている。平成7年に完成し貴重な観光資源になっています。

